

研究タイトル：

国文学，国語教育，教養教育，地域振興



氏名： 加田謙一郎 / KADA Kenichiro E-mail: kada@tsuruoka-nct.ac.jp

職名： 准教授 学位： 修士(文学)

所属学会・協会： 成城国文学会・仏教文学会・日本高専学会

キーワード： テキスト分析・教養教育・国語コミュニケーションスキル教育・地域振興モデル

技術相談

提供可能技術：

- ・国文学に関する共同研究に応じることが可能です。
- ・国語教育・教養教育に関する共同研究に応じることが可能です。
- ・マイクロバブル技術を活かした地域振興に関する知見を提供することが可能です。

研究内容：

近年は、国文学以外にも、地域の企業の方・保護者の方からの要請を受け、国語コミュニケーションスキル教育、学生指導等のあり方、教養教育のあり方、マイクロバブル技術の普及活動に関して、新たに考察をする機会が多くなりました。メインテーマの国文学研究充実とともに、今後も社会と学生たちのニーズに、しっかりと応えられる教員を目指したいと考えております。

【国文学研究について】

主たる研究対象は国文学です。研究テーマは、狂言テキストの中における「聖俗の有りよう」です。とりわけ、「救済の有りよう」と、「救済をもたらす者の有りよう」を考究することです。

狂言テキストをはじめとする近代以前の「聖俗の有りよう」と、近代以降の「聖俗のありよう」を比較検討することが、メインテーマです。ときには、海外文学におけるそれとの比較検討も視野に入れ、「物語における救済」とは何か、その時代や地域における特徴を探ることが目的です。また種々のテキストから、「物語としての救済」と「物語としての宗教」の関係を追求しています。(例：お伽草子「鉢かづき」・番外狂言「呪ひ男」・「柿山伏」等)

また特に近現代国文学を対象として扱う際には、「救済」を隠されたキーワードとして設定した上で、近世以前のテキストと近現代のテキストを比較し、日本の近代化のさまざまな問題点・歪みを明らかにしてゆくことを目的としております。(例：泉鏡花「冠弥左衛門」・永井荷風「妾宅」等)

【国語教育・教養教育について】

国語教育に関しては、「聞く、読む、書く、話す」というアクティブラーニングを基礎にした、論理伝達能力の養成を重視する教育方法を実践・研究しております。鶴岡高専が主管校であった「平成 14-15 年度国立高等専門学校協会教育方法改善(東北地区高専)共同プロジェクト 高専における国語コミュニケーションスキル教育の評価と改善」を受けて、継続的な改善を行っております。最近の報告として、「国語教育における論理性・客観性養成のための『まじめさ』の指導」(日本高専学会誌, 17(3) 29-34, 2012 年 7 月)があります。教養教育に関しては、グローバル化が進む世界において、「教養教育」の今日的意味を考えるとともに、「道徳の有りよう」についても探っております。

【地域振興について】

マイクロバブル技術の普及と社会貢献を分析し、マイクロバブル技術による社会実践の「モデル化」を追求しております。2006 年から 2007 年に、人事交流者として徳山高専に赴任した際に、マイクロバブル技術を知りました。地元山形県でも、この技術の普及は地域振興に役立つのではないかと考え、普及のための講演会の企画、鶴岡マイクロバブル技術研究会創設、石川修一氏の特許申請書類草稿作成等において協力して参りました。この間、山形県水産試験場の研究者の皆様、鶴岡青年会議所の皆様、鶴岡法人会青年部の皆様をはじめとする、数多くの地元の方々のご理解とご協力を賜りました。鶴岡高専においても、各学科を横断した研究会の設立や、有志学生の皆様によって、マイクロバブル技術研究が勃興したことは望外の幸せでした。この取り組みが、広く「地域振興モデル」となればと念じております。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	